

令和7年度捕獲等事業評価シート
(ニホンジカ)

和歌山県 鳥獣害対策課

評価シート（二ホンジカ）

施地域毎に記入します。実施地域が複数ある場合は、様式をコピーして作成してください。

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

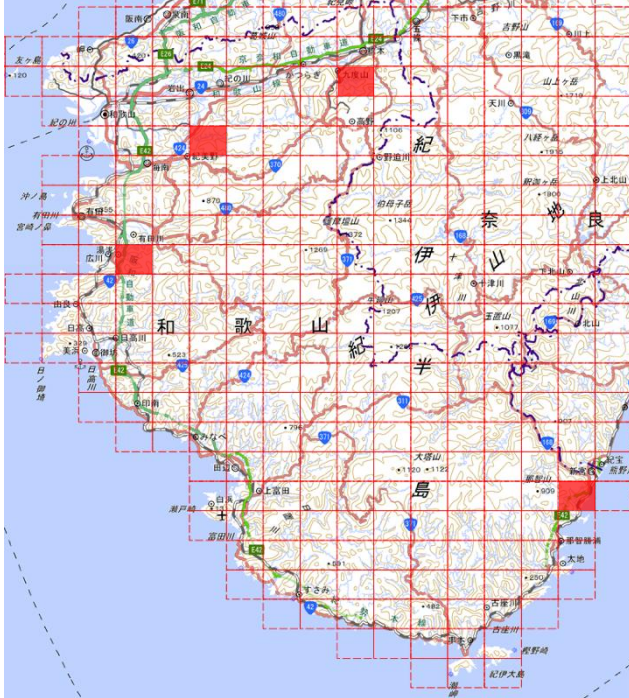
| | |
|--------|---|
| 事業実施地域 | 紀の川市桃山町地区、九度山町丹生川地区、新宮市佐野地区、那智勝浦町高津気地区、湯浅町山田地区（3箇所） |
| 事業主体 | 和歌山県鳥獣害対策課 |
| 事業実施期間 | 令和7年7月1日～令和8年3月31日 |
| 捕獲手法 | 囲いわな |
| 事業メニュー | ②捕獲等メニュー |
| 事業費 | 4,265,630円（事前打合せ及び現地調整に係る経費を含む） |

■ 事業の評価

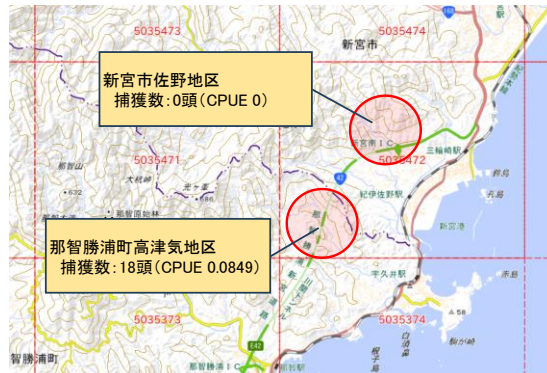
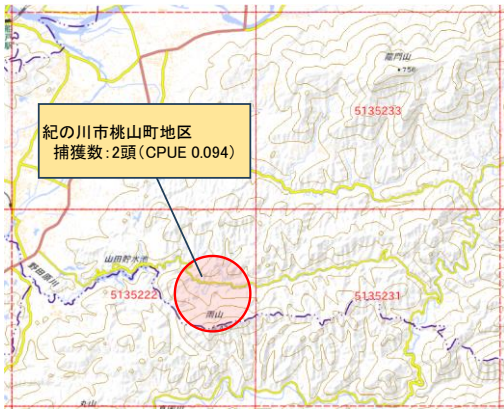
| 評価項目 | 当初予定 | 実績 | 評価 |
|------------|---|----------------------------------|--|
| 捕獲目標 | 囲いわな：70頭 （各地区10頭、ただし湯浅町山田地区のみ30頭） | 囲いわな：26頭 | 捕獲目標の達成率は約37%であった。前年度よりも捕獲者の習熟は進んだものの、捕獲に要する期間の短縮が進まず捕獲目標未達となった。 |
| 捕獲作業量 | 囲いわな：1,577基日 | 囲いわな：1,556基日 | 計画通りの作業量を投じることができた。 |
| 効率的な捕獲 | 囲いわな：0.04頭/基日 （昨年事業の捕獲効率：0.019頭/人日） | 囲いわな：0.017頭/基日 | 捕獲者の習熟は進んだものの、わな破損による捕獲個体の逃走事例もあり、前年度をやや下回った。 |
| 事業に要した人員数 | 105人日 | 107人日 | 予定通りの人員数を投じて作業を実施した。従事者1人当たりの捕獲数は0.24頭であった。 |
| 安全管理体制 | 受託者は以下の安全対策を実施。 ・捕獲実施期間中は原則毎日わなの見回りを実施 | 計画に沿って安全対策が行われた。 | 事故等の発生はなく、安全に業務が遂行された。 |
| 捕獲個体の処分方法 | 埋設または減容化施設での処理。 | 計画に沿って処分が行われ、獣による掘り起こし等は発生しなかった。 | 計画通り事業は遂行された。 |
| 環境への影響への配慮 | 誘引餌にハイキューブを使用することで錯誤捕獲を防止。 | 計画に沿って錯誤捕獲対策が行われた。 | 計画通り事業は遂行された。 |

| | | | |
|----------------|--|---|--|
| <p>捕獲個体の属性</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・オス 5 頭、メス 10 頭 ・成獣 7 頭、幼獣 8 頭 (昨年度事業実績) | <ul style="list-style-type: none"> ・オス 10 頭、メス 16 頭 ・成獣 20 頭、幼獣 6 頭 | <p>昨年度よりもメスの割合はやや低下したものの、成獣の割合が増加した。</p> |
|----------------|--|---|--|

■ 添付図面 (5 kmメッシュ地図)



事業実施地区全体図
事業を実施したメッシュを赤色に着色



各実施地区の捕獲区域及び捕獲状況

各実施地区におけるニホンジカ捕獲数及び捕獲効率の推移

| 実施地域 | | 8月 | | | 9月 | | | 10月 | | |
|-------|------|------|----|-------|----|-------|----|-----|-------|----|
| | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 |
| 紀の川市 | 捕獲数 | 誘引開始 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 桃山町地区 | CPUE | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.100 | 0 |
| 九度山町 | 捕獲数 | 誘引開始 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 丹生川地区 | CPUE | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 新宮市 | 捕獲数 | 誘引開始 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 佐野地区 | CPUE | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 那智勝浦町 | 捕獲数 | 誘引開始 | 0 | 2 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 高津気地区 | CPUE | | 0 | 0.182 | 0 | 0.500 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 湯浅町 | 捕獲数 | 誘引開始 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 山田地区 | CPUE | | 0 | 0 | 0 | 0.033 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| 実施地域 | | 11月 | | | 12月 | | | 1月 | | |
|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|----|-------|-------|----|
| | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 |
| 紀の川市 | 捕獲数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 桃山町地区 | CPUE | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 九度山町 | 捕獲数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 丹生川地区 | CPUE | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.100 | 0 | 0 |
| 新宮市 | 捕獲数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 佐野地区 | CPUE | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 那智勝浦町 | 捕獲数 | 0 | 1 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 高津気地区 | CPUE | 0 | 0.100 | 0.400 | 0 | 0.400 | 0 | 0 | 0.100 | 0 |
| 湯浅町 | 捕獲数 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 山田地区 | CPUE | 0.033 | 0 | 0 | 0.033 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| 実施地域 | | 2月 | | | 3月 | | |
|-------|------|----|-------|-------|-------|----|----|
| | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 |
| 紀の川市 | 捕獲数 | 0 | 1 | 0 | | | |
| 桃山町地区 | CPUE | 0 | 0.100 | 0 | | | |
| 九度山町 | 捕獲数 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 丹生川地区 | CPUE | 0 | 0 | 0 | | | |
| 新宮市 | 捕獲数 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 佐野地区 | CPUE | 0 | 0 | 0 | | | |
| 那智勝浦町 | 捕獲数 | 0 | 0 | 1 | | | |
| 高津気地区 | CPUE | 0 | 0 | 0.125 | | | |
| 湯浅町 | 捕獲数 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 山田地区 | CPUE | 0 | 0.033 | 0 | 0.033 | 0 | 0 |

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

紀の川市桃山町地区、九度山町丹生川地区、新宮市佐野地区、那智勝浦町高津気地区、湯浅町山田地区（3箇所）

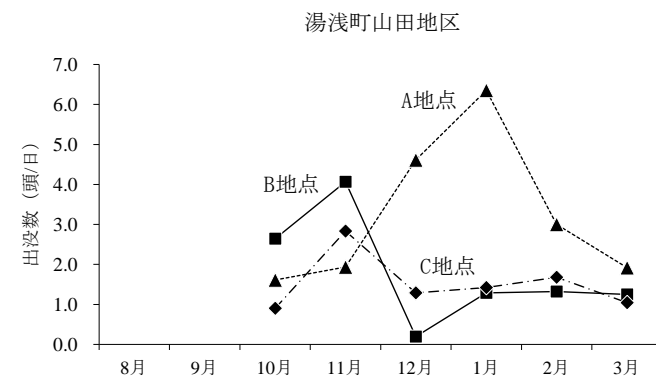
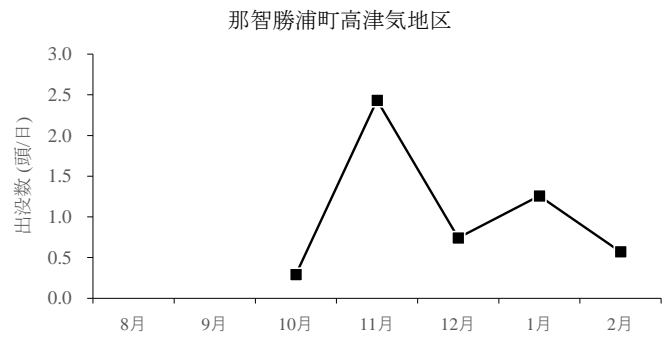
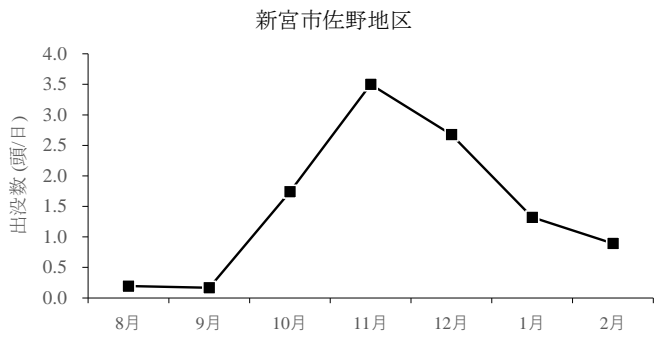
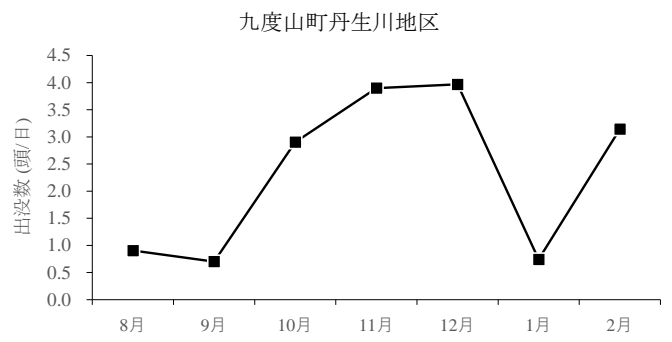
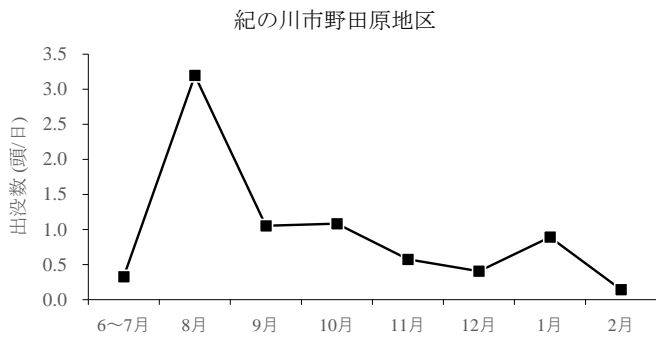
■ 出沒（密度）

| 評価項目 | モニタリング項目・方法・情報 |
|-------------------|--|
| 事業実施前もしくは事業開始時・前半 | ・自動撮影カメラによる撮影頻度（捕獲開始後1ヶ月間） 0.19～0.90 頭/カメラ台日 |
| 事業実施後もしくは事業終盤・後半 | ・自動撮影カメラによる撮影頻度（捕獲終了前1ヶ月間） 0.14～3.14 頭/カメラ台日 |
| 評価 | シカの出沒数は路線により傾向が異なり、一部路線では逆に増加した。増加した要因としては、シカの季節的な出沒数の変化や、餌付けされた特定個体が繰り返し出沒することで出沒数が過大に算出された可能性が考えられた。 |

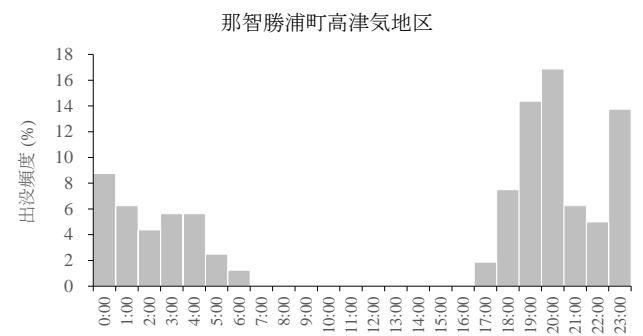
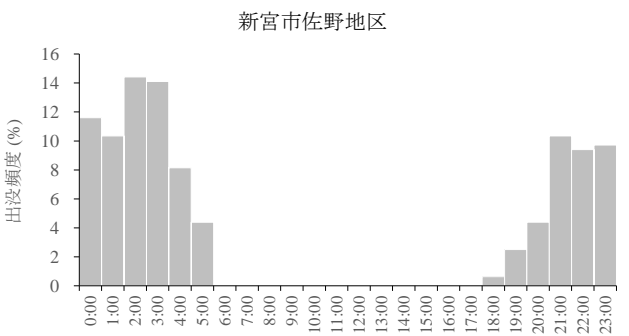
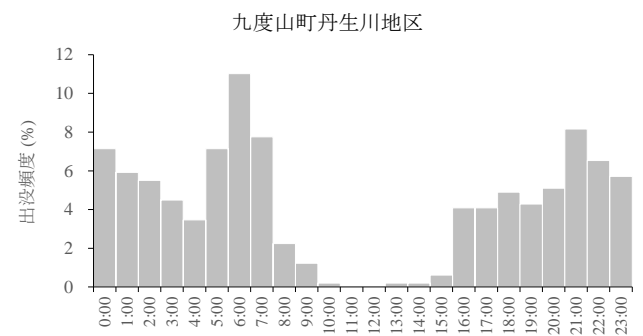
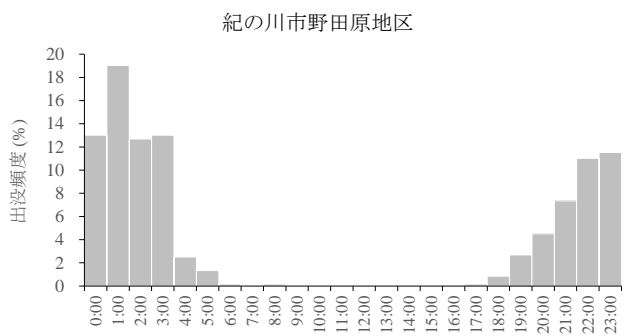
■ 被害

| 評価項目 | モニタリング項目・方法 |
|------------------|---|
| 事業実施前もしくは開始時・前半 | ・令和6年度農作物被害額（ニホンジカ） 県全体 50,603 千円 紀美野町 2,987 千円 紀の川市 737 千円 古座川町 530 千円 |
| 事業実施後もしくは事業終盤・後半 | ・令和7年度農作物被害額（ニホンジカ） （集計中） |
| 評価 | 紀北地域ではシカの生息が拡大し、それに伴って被害額も増加傾向にある。単年度での評価は難しいため、今後も継続して被害状況を調査する。 |

■ 添付図面



各実施地区の月ごとの一日あたりニホンジカ
出没数の推移



各実施地区の捕獲実施期間中の時間帯別ニホンジカ出没割合

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点（STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。）

| | |
|--|---|
| 1. 捕獲に関する評価及び改善点* | |
| 【目標設定】 | <p>評価：捕獲目標数は未達で、前年度と比較して捕獲数の増加がみられたが、CPUEは低下した。</p> <p>改善点：餌付けや捕獲の手法を見直すことで捕獲効率の改善を図る。</p> |
| 【実施期間】 | <p>評価：前年度より実施期間を3ヶ月間延長した結果、捕獲数が増加した。</p> <p>改善点：引き続き捕獲期間を確保していく。</p> |
| 【実施位置】 | <p>評価：前年から同地点で実施することで、安定した捕獲が実施できた。</p> <p>改善点：引き続き同地点で捕獲を実施する。</p> |
| 【捕獲手法】 | <p>評価：捕獲従事者の習熟度は前年度より高くなったが、捕獲効率の向上にはつながらなかった。</p> <p>改善点：引き続き捕獲従事者の習熟度向上を図るとともに、他の捕獲手法のノウハウを援用できないか検討する。</p> |
| 【捕獲コスト】 | <p>評価：一頭あたりの捕獲コストは前年度と比較して約56%改善したものの、依然として高い水準にある。</p> <p>改善点：捕獲間隔を短縮化し捕獲効率を向上させることでコスト低減を目指す。</p> |
| 2. 体制整備に関する評価及び改善点 | |
| 【実施体制】 | <p>評価：実施地区の協力により、支障なく捕獲作業が実施できた。</p> <p>改善点：適正な実施体制を継続する。</p> |
| 【個体処分】 | <p>評価：捕獲個体は全て埋設または減容化処理を行い、捕獲個体の放置は行われなかった。</p> <p>改善点：適正な個体処理を継続する。</p> |
| 【環境配慮】 | <p>評価：少数のイノシシがわな内に侵入したが錯誤捕獲は起こらなかった。</p> <p>改善点：自動撮影カメラの画像を確認しながら適正な錯誤捕獲対策を継続する。</p> |
| 【安全管理】 | <p>評価：適切な頻度でわなの見回りを実施したことで、事故等の発生はなかった。</p> <p>改善点：安全管理の徹底を継続する。</p> |
| 3. その他の事項に関する評価及び改善点 特になし | |
| 4. 全体評価 前年度と比べて長期の捕獲期間を確保したものの、捕獲目標頭数は未達であった。目標頭数達成及びさらなる捕獲コスト低減のためには、捕獲間隔の短縮など捕獲効率の向上が必須であることから、捕獲従事者の技術向上を図るとともに捕獲手法の再検討を進める。 | |

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

| | |
|----------------|---|
| 特定鳥獣保護・管理計画の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・捕獲目標頭数 年間 19,000 頭以上 (令和2年度の推定個体数を令和12年度までに半減) ・農作物被害額 令和2年度被害額を令和8年度までに30%低減 |
| 寄与状況の評価 | もぐり込み式囲いわなはニホンジカの習性を利用した物で、捕獲時に大きな音がしないことから、同一カ所での持続的な捕獲が可能とされる。一部の事業 |

| | |
|--|---|
| | 実施地域においても、捕獲実施直後から他個体の出没が確認された。捕獲者の習熟または他の機材との併用により捕獲効率を向上させることで、捕獲目標への寄与をさらに高められるものとする |
|--|---|

評価シート（ニホンジカ）

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

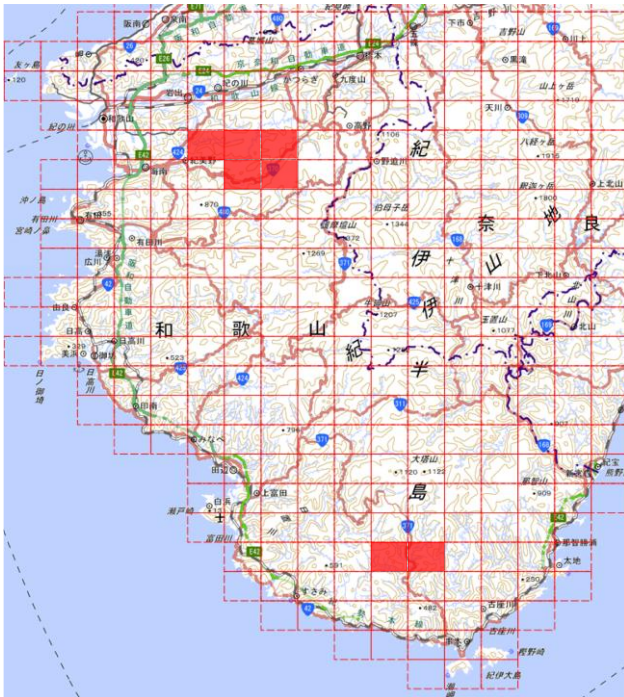
| | |
|--------|---|
| 事業実施地域 | 紀美野町旧美里地区、紀の川市鞆渕地区、紀の川市桃山町地区、古座川町佐田・添野川地区 |
| 事業主体 | 和歌山県鳥獣害対策課 |
| 事業実施期間 | 令和7年7月1日～令和8年3月31日 |
| 捕獲手法 | 夜間銃猟 |
| 事業メニュー | ③市町村連携タイプ |
| 事業費 | 8,345,930円（事前打合せや現地調整に係る経費を含む） |

■ 事業の評価

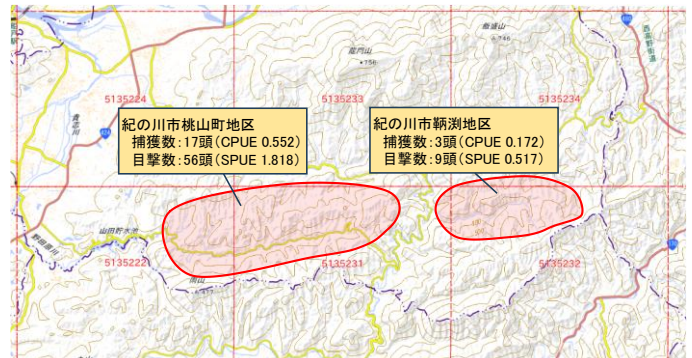
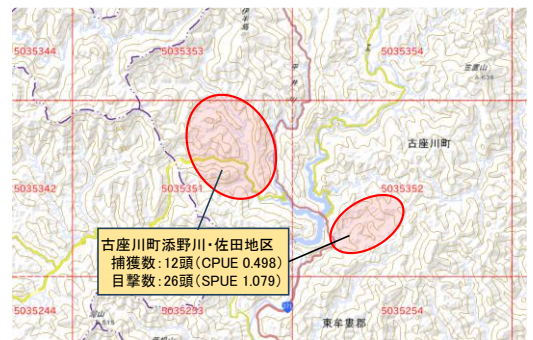
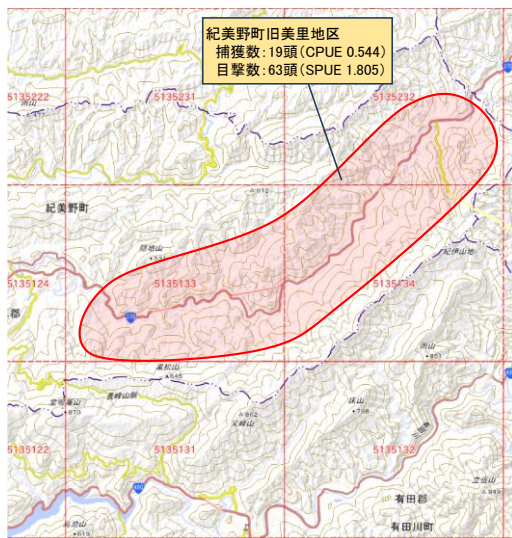
| 評価項目 | 当初予定 | 実績 | 評価 |
|-----------|--|----------------------|--|
| 捕獲目標 | 銃器：64頭 （各地区16頭） | 銃器：51頭 | 捕獲目標の達成率は約80%であった。一部路線でシカの出没と夜間銃猟の時間帯が相違したことなどにより捕獲が低迷したため、捕獲目標未達となった。 |
| 捕獲作業量 | 銃器：112人日 | 銃器：107人日 | 計画通りの作業量を投じることができた。 |
| 効率的な捕獲 | 銃器：0.3頭/人日 （昨年事業の捕獲効率： 0.33頭/人日） | 銃器：0.48頭/人日 | 適切な条件下で捕獲を実施できたことで、目標を上回る捕獲効率となった。 |
| 事業に要した人員数 | 160人日 | 168人日 | 予定通りの人員数を投じて作業を実施した。従事者1人当たりの捕獲数は0.30頭であった。 |
| 安全管理体制 | 受託者は以下の安全対策を実施。 ・緊急時の連絡体制や事故時の対応要領を策定 ・チラシや看板等による近隣住民への事前周知 ・銃猟の実施時に路線を通行止めとし、路線内への立入りを禁止 ・捕獲地点ではサーマルビジョンやライト等によりシカの姿と周囲の安全を確認した上で発砲 | 計画に沿って、安全対策が行われた。 | 人身事故等の事故の発生はなく、安全に業務が遂行された。 |
| 捕獲個体の処分方法 | 埋設または処理施設での焼却 | 計画に沿って処分が行われ、獣による掘り起 | 計画通り事業は遂行された。 |

| | | | |
|------------|---|--|---|
| | | こし等は発生しなかった。 | |
| 環境への影響への配慮 | 非鉛製銃弾の使用を勧奨 | 非鉛製銃弾を一部使用 | 計画通り事業は遂行された。 |
| 捕獲個体の属性 | <ul style="list-style-type: none"> ・オス 19 頭、メス 19 頭 ・成獣 38 頭 (昨年度事業実績) | <ul style="list-style-type: none"> ・オス 22 頭、メス 29 頭 ・成獣 51 頭 | 昨年度よりもメスの割合が増加した。実施時期を前倒しとした影響の可能性があるが、複数年度での検証が必要。 |

■ 添付図面（5 kmメッシュ地図）



事業実施地区全体図
事業を実施したメッシュを赤色に着色



各実施地区の捕獲区域及び捕獲・目撃状況

各実施地区におけるニホンジカ捕獲数及び捕獲効率の推移

| 実施地域 | | 9月 | | | 10月 | | | 11月 | | |
|------------------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 |
| 紀美野町 旧美里地区 | 捕獲数 | | | | 誘引開始 | 8 | 7 | | 1 | 3 |
| | CPUE | | | | | 0.877 | 0.812 | | 0.125 | 0.329 |
| 紀の川市 鞆渚地区 | 捕獲数 | 誘引開始 | | 1 | 2 | | 0 | | | |
| | CPUE | | | 0.167 | 0.371 | | 0 | | | |
| 紀の川市 桃山町地区 | 捕獲数 | 誘引開始 | 5 | 1 | | 3 | 5 | 3 | | |
| | CPUE | | 0.755 | 0.167 | | 0.453 | 0.909 | 0.5 | | |
| 古座川町 添野川・佐田地区 | 捕獲数 | | | | 誘引開始 | 9 | 2 | 1 | | |
| | CPUE | | | | | 0.742 | 0.302 | 0.186 | | |

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

紀美野町旧美里地区、紀の川市鞆渕地区、紀の川市桃山町地区、古座川町佐田・添野川地区

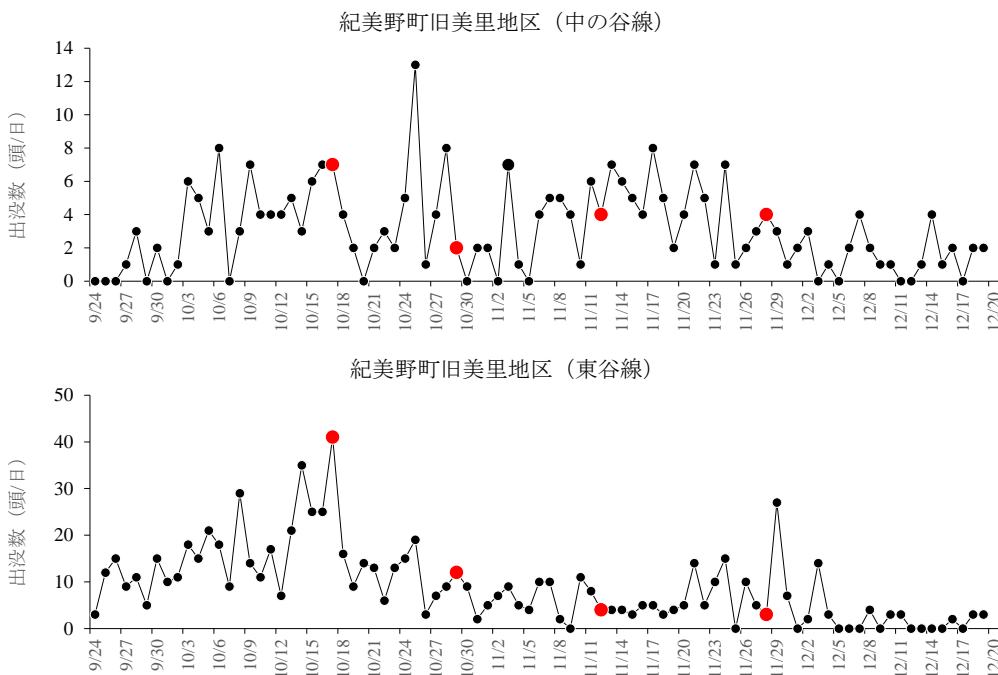
■ 出沒（密度）

| | |
|-------------------|--|
| 評価項目 | モニタリング項目・方法・情報 |
| 事業実施前もしくは事業開始時・前半 | ・自動撮影カメラによる撮影頻度（餌付け開始前1～3週間） 0.42～10.11 頭/カメラ台日 |
| 事業実施後もしくは事業終盤・後半 | ・自動撮影カメラによる撮影頻度（銃猟終了1週間後から1～3週間） 0.60～1.57 頭/カメラ台日 |
| 評価 | 多くの路線でシカの出沒数はやや減少～横ばいであったが、一部路線では逆に増加した。増加した要因としては、シカの季節的な出沒数の変化や、餌付けによる誘引効果がなくなるまで長期間を要した可能性が考えられた。 |

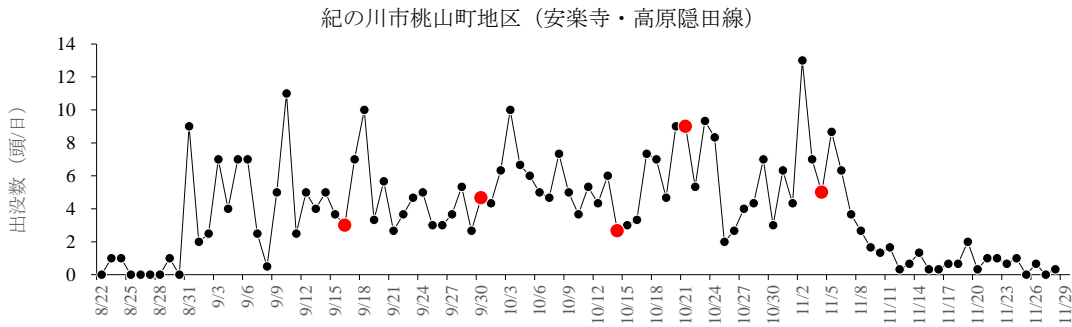
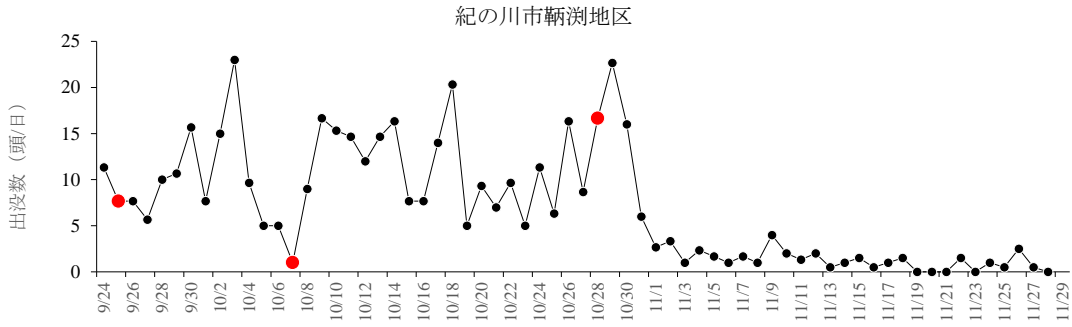
■ 被害

| | |
|------------------|---|
| 評価項目 | モニタリング項目・方法 |
| 事業実施前もしくは開始時・前半 | ・令和6年度農作物被害額（ニホンジカ） 県全体 50,603 千円 紀美野町 2,987 千円 紀の川市 737 千円 古座川町 530 千円 |
| 事業実施後もしくは事業終盤・後半 | ・令和7年度農作物被害額（ニホンジカ） （集計中） |
| 評価 | 紀北地域ではシカの生息が拡大し、それに伴って被害額も増加傾向にある。単年度での評価は難しいため、今後も継続して被害状況を調査する。 |

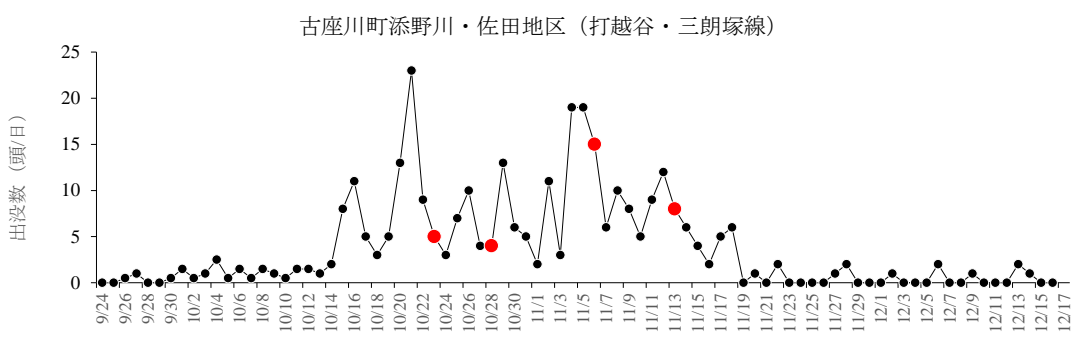
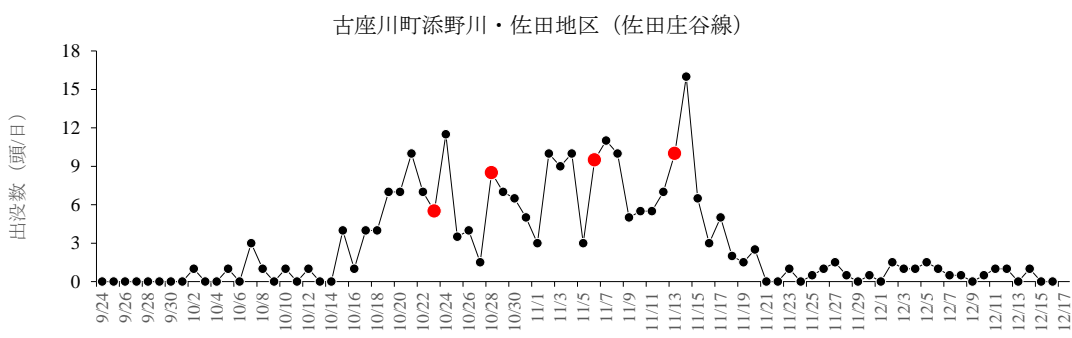
■ 添付図面



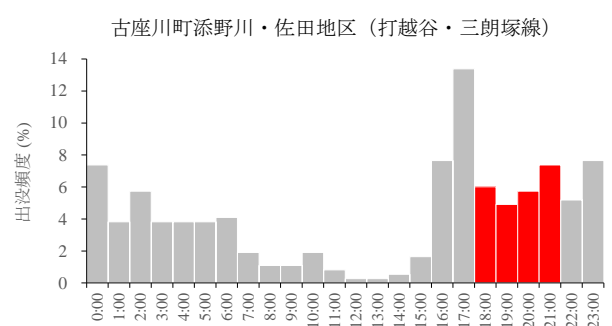
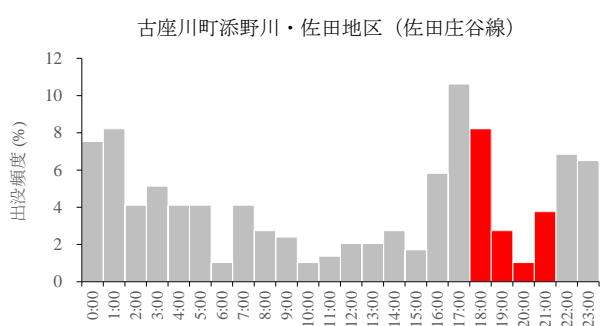
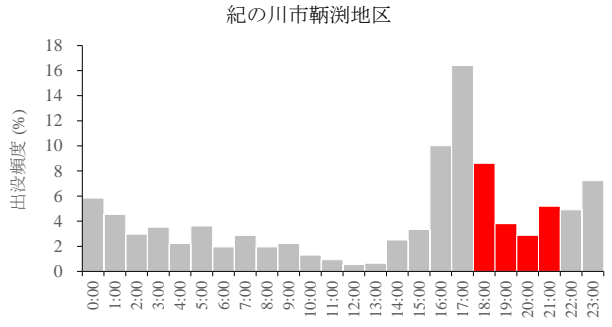
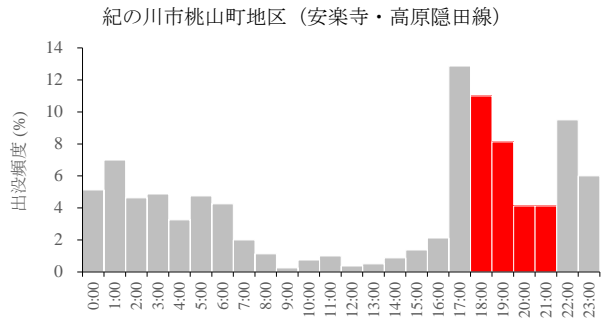
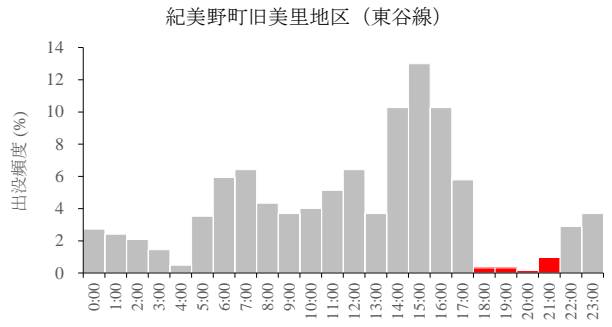
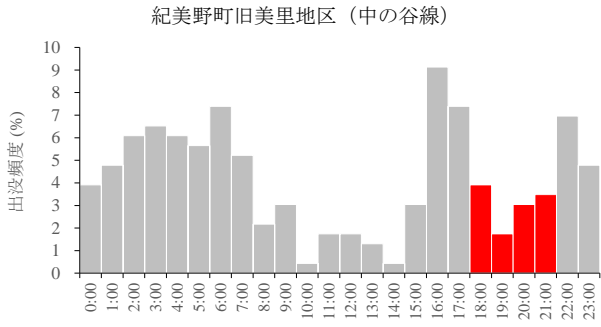
各実施地区の一日あたりニホンジカ出沒数の推移（紀美野町旧美里地区）
図中の赤丸は夜間銃猟実施日を表す



各実施地区の一日あたりニホンジカ出没数の推移 (紀の川市鞆渕地区、桃山町地区)
 図中の赤丸は夜間銃猟実施日を表す



各実施地区の一日あたりニホンジカ出没数の推移 (古座川町添野川・佐田地区)
 図中の赤丸は夜間銃猟実施日を表す



各実施地区の捕獲実施期間中の時間帯別ニホンジカ出没割合
 図中の赤色棒は夜間銃猟実施時間帯を表す

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点

| | |
|--|---|
| 1. 捕獲に関する評価及び改善点* | |
| 【目標設定】 | 評 価：捕獲目標数は未達ではあるが、前年度と比較して捕獲数の増加がみられた。 |
| | 改善点：捕獲時間帯を再検討することで、捕獲効率の改善を図る。 |
| 【実施期間】 | 評 価：一部地区で昨年度より実施時期を前倒した結果、捕獲数の増加や捕獲従事者の負担軽減といった効果がみられた。 |
| | 改善点：他地区でも実施時期の前倒しが図れないか関係者と調整を行う。 |
| 【実施位置】 | 評 価：1 地区で前年度から実施路線を1ヶ所追加し、一定数の捕獲数が得られた。 |
| | 改善点：新規路線候補について関係機関に照会を行う。 |
| 【捕獲手法】 | 評 価：一部に銃猟実施時間帯の出没が低下している路線があり、スマートディアの発生が懸念される。 |
| | 改善点：シカの学習を防止するため、関係機関に併せて許可捕獲を強化するよう要請する。 |
| 【捕獲コスト】 | 評 価：一頭あたりの捕獲コストは前年度と比較して約 34%改善したものの、依然として高い水準にある。 |
| | 改善点：安全管理の面から実施にかかる人工数の削減は困難であり、捕獲効率を向上させることで捕獲コストの低減を目指す。 |
| 2. 体制整備に関する評価及び改善点 | |
| 【実施体制】 | 評 価：関係機関との連携により、支障なく捕獲作業が実施できた。 |
| | 改善点：関係機関と連携した実施体制を継続する。 |
| 【個体処分】 | 評 価：捕獲個体は全て埋設または処理施設での焼却による処理を行い、捕獲個体の放置は行われなかった。 |
| | 改善点：適正な個体処理を継続する。 |
| 【環境配慮】 | 評 価：非鉛製銃弾の使用を勧奨したが、精密な射撃を要することから非鉛製銃弾の使用は一部に留まった。 |
| | 改善点：引き続き非鉛製銃弾の使用を勧奨していく。 |
| 【安全管理】 | 評 価：銃猟の実施にあたり事故やクレーム等がなく安全に実施できた。 |
| | 改善点：事故等のないように安全管理の徹底を継続する。 |
| 3. その他の事項に関する評価及び改善点 特になし | |
| 4. 全体評価 捕獲目標頭数には未達ではあったものの、前年度と比べて実施時期を前倒しとすることで捕獲頭数を増加させることができた。また、捕獲終了時期を早めることで、冬季の実施回数を削減し、捕獲従事者の負担軽減を図ることができた。 事故やクレーム等なく実施できたことから、今後も適正な実施に努めていく。 | |

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

| | |
|----------------|--|
| 特定鳥獣保護・管理計画の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・捕獲目標頭数 年間 19,000 頭以上 (令和 2 年度の推定個体数を令和 12 年度までに半減) ・農作物被害額 令和 2 年度被害額を令和 8 年度までに 30%低減 |
|----------------|--|

| | |
|---------|--|
| 寄与状況の評価 | 夜間銃猟はニホンジカの警戒心が薄くなる時間帯に捕獲を行うことで、従来の捕獲手法とは重複しない新たな捕獲機会を獲得する効果が期待される。事業実施地域においても、狩猟や許可捕獲と一体的に実施することで、効果的な捕獲に寄与したものとする。 |
|---------|--|